



発行 ● 県域キャベツ推進会議
事務局 ● 広島県農林水産局農産課

〒730-8511
広島市中区基町 10-52
TEL (082)513-3592
● 全農ひろしま資材農産部農産課
〒739-2208
東広島市河内町入野 1631-13
TEL (082)437-2320

平成22年度 春作の実績は、面積 8.8ha、出荷 158t

今年度の県域キャベツの春作が終了しました。面積は 8.8ha と前年の 6.3ha より 2.5ha 増加、一方出荷量は 158t と前年の 198t より 40t 減少しました。

早春期の曇雨天や低温と降霜、梅雨期の連続した降雨で、生育が遅れ、出荷ピークが予定より 2 週間程度遅い 6 月下旬～7 月中旬となりました。今年度は異常気象の連続で計画が大きくずれました。また、生育後半の極端な高温早ばつが、結球期の球肥大を抑制し小玉化による大幅な出荷量減を招きました。

悪条件の中、契約的出荷は 7 月末までの実施でしたが、通常の市場出荷は 8 月も引き続き行われました。

○ 春作の生育状況と販売結果

生育状況 異常気象の影響が太!

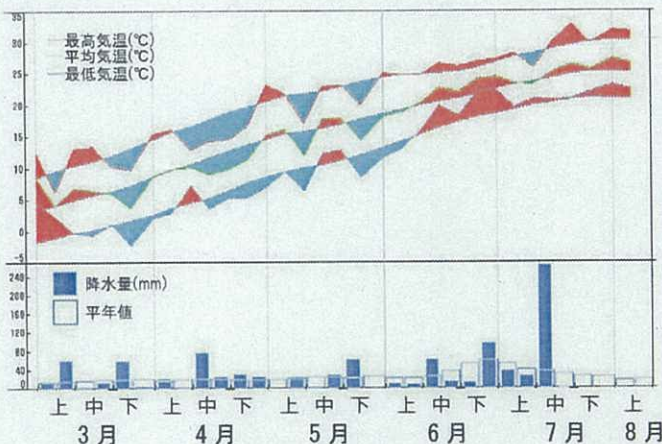
3 月上旬～5 月上旬の定植時期が低温で、全体的に前半の生育が遅れました。また、4 月には霜害もあり、定植したキャベツが枯死したほ場も見られました。5 月～6 月上旬の生育中は、好天が続き生育が回復しましたが、前半の低温が影響し、出荷時期は結局予定より 2 週間程度遅れ、6 月下旬～7 月中旬がピークとなりました。また、かん水設備のないほ場では、梅雨明け後の高温早ばつで、生育が進まず小玉化により出荷量減となりました。

販売結果 量は少ないながらもクレームは減少

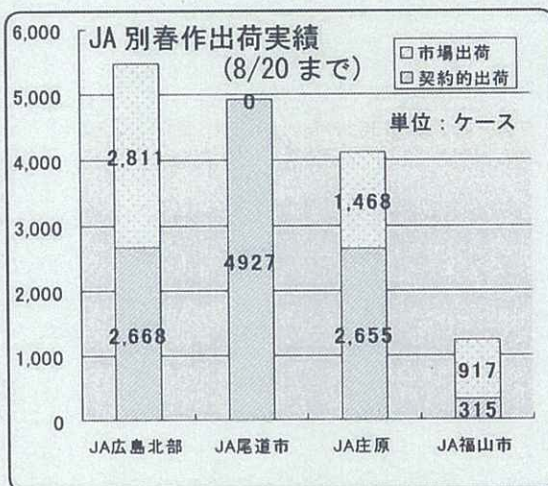
春作の出荷量は 158t(15,761 ケース)となりました。そのうち、今年度から開始した契約的出荷は 107t(10,565 ケース)、従来の市場出荷は 52t(5,196 ケース)となりました。

実需者から安定的な品質や量を求められる中、JA 全農ひろしまでは、出荷計画の概ね 5 割を契約的出荷という販売に取り組みました。異常気象の影響もあり、計画していた出荷時期が遅れましたが、量や品質では大きなクレームはありませんでした。しかし、梅雨時期の販売先での軟腐病の発生、A 品に B 品が混入する等、秋作以降で改善すべき点は残りました。

計画出荷に基づく県域キャベツの取組みは、実需者からの信頼や期待も大きくなっていますので、基本管理をしっかり行い、安定生産ができるようにしなければなりません。



例：世羅町のアメダスデータ



～ 今行われている秋作に向けて 生産者の皆様へ ～ 【JA 全農ひろしまより】

秋作についても、販売計画を立てて進めているところです。雨量が少なく栽培に苦慮されていると思いますが、安定販売ができるよう努めますので、かん水、防除など基本管理をしっかり行い、計画出荷ができるようお願いいたします。